

フォーラムに 本組合職員が登壇

—持続可能な

森林経営を発信—

本年一月十八日、高崎市市民活動センターを会場に開催されたフォーラム（主催・高崎青年会議所）に、本組合の森林経営課石井宏一郎主任がパネリストとして登壇しました。

フォーラムのテーマは「つくる時代からつなぐ社会へ」。これからの循環型社会、そして持続可能な未来の実現に向けて、私たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考える場として企画されました。

役職員 合同研修会 を開催

～地域資源を
活かした先進的な
取組に学ぶ～

昨年十月、役員・職員合わせて三十六名が参加し、合同研修会を実施しました。



森林・林業の大切さを発表

今回は、地域資源を活かしたまちづくりと、森林組合の先進的な取組を学ぶことを目的に、利根郡川場村内の二つの施設を訪問しました。

●地元木材を活用した複合施設「川場ベース」

最初に訪れたのは、令和五年十月に完成したばかりの複合施設「川場ベース」です。役場・議会・子どもの学習室・多目的ホール・防災倉庫などが一体となつたモダンな建物で、地元産の木材をふんだんに使い、木の温もりが感じられる空間となっていました。



利根沼田森林組合での意見交換



美しい木組みの川場ベース

当日は、元環境事務次官の中井徳太郎氏や、群馬住みます芸人のアンカンミンカン富所哲平氏らも参加し、それぞれの立場から環境や地域、未来について意見を交わしました。

石井主任は「持続可能な森林とは何か」をテーマに、森林の多面的機能や循環利用の重要性、そして地域の森林を守り育てる組合の役割について発表。「木を

でもある川場村の外山京太郎村長が、多忙の中にもかかわらず、直々に施設を案内し説明してくれました。地域と森林資源のつながりを大切にした取り組みに、参加者一同感銘を受けました。

当日は、利根沼田森林組合長である川場村の外山京太郎村長が、多忙の中にもかかわらず、直々に施設を案内し説明してくれました。地域と森林資源のつながりを大切にした取り組みに、参加者一同感銘を受けました。

また、暖房には地元産の木質チップを活用した薪ボイラーガルギーの地産地消が実現されています。

続いて訪問したのは、県内十五組合の中でも先駆的に多様な事業に取り組んでいる利根沼田森林組合です。森林認証やJ-クレジット制度など、森林の公益的機能を活かした先進事例について説明を受けました。

●先進的な取り組みが進む 「利根沼田森林組合」

当初は視察研修の予定でしたのが、話が盛り上がり、気が付けば意見交換会のような形になりましたが、互いの取り組みについての理解を深める貴重な機会となりました。

今回の研修で得た知見は、本組合の今後の事業展開に活かしてまいります。